

13) 外科・消化器外科・乳腺外科・呼吸器外科プログラム

研修医氏名

指導医氏名

I. 一般目標

すべての臨床医に求められる基本的な外科的診察・検査・治療の知識・技能の習得を目標とする。

II. 経験目標

A. 経験すべき診察法・検査・手技

II-A- (1) 医療面接

★明朝体：経験が必要とされる項目

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意識を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。	A B C D	A B C D
★	2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。	A B C D	A B C D
★	3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。	A B C D	A B C D

II-A- (2) 基本的な身体診察法

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するた

		研修医評価	指導医評価
★	1) 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる。	A B C D	A B C D
★	2) 頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔、口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む）ができ、記載できる。	A B C D	A B C D
★	3) 胸部の診察（乳房の診察を含む）ができ、記載できる。	A B C D	A B C D
★	4) 腹部の診察（直腸診を含む）ができ、記載できる。	A B C D	A B C D
☆	5) 骨盤内診察ができ、記載できる。	A B C D	A B C D

☆ゴシック体：当該科で経験が必要とされる項目

II-A- (3) 基本的な臨床検査

		研修医評価	指導医評価
★	1) 血液型判定・交差適合試験	A B C D	A B C D
★	2) 動脈血ガス分析	A B C D	A B C D
	3) 細胞診・病理組織検査	A B C D	A B C D
★	4) 超音波検査	A B C D	A B C D
★	5) 単純X線検査	A B C D	A B C D
★	6) 造影X線検査	A B C D	A B C D
★	7) X線CT検査	A B C D	A B C D
★	8) MRI検査	A B C D	A B C D
☆	9) 胸水検査	A B C D	A B C D
☆	10) 腹水検査	A B C D	A B C D

II-A- (4) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 気道確保を実施できる。	A B C D	A B C D
★	2) 人工呼吸を実施できる。（バック・バルブ・マスクによる徒手換気を含む）	A B C D	A B C D
★	3) 圧迫止血法を実施できる。	A B C D	A B C D
★	4) 包帯法を実施できる。	A B C D	A B C D
★	5) 注射法（皮下、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）を実施できる。	A B C D	A B C D
★	6) 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。	A B C D	A B C D
★	7) 穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。	A B C D	A B C D
★	8) ドレーン・チューブ類の管理ができる。	A B C D	A B C D
★	9) 胃管の挿入と管理ができる。	A B C D	A B C D
★	10) 局所麻酔法を実施できる。	A B C D	A B C D
★	11) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。	A B C D	A B C D
★	12) 簡単な切開・排膿を実施できる。	A B C D	A B C D
★	13) 皮膚縫合法を実施できる。	A B C D	A B C D
★	14) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。	A B C D	A B C D
★	15) 気管挿管を実施できる。	A B C D	A B C D
☆	16) 消毒法を理解し、手術野の消毒、手術時の手洗いが実施できる。	A B C D	A B C D
☆	17) 皮膚良性腫瘍の摘出などの小手術ができる。	A B C D	A B C D
☆	18) 開腹手術・腹腔鏡手術の助手として参加し所見が理解できる。	A B C D	A B C D
☆	19) 中心静脈カテーテルの挿入ができる。	A B C D	A B C D

II-A-(5) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む）ができる。	A B C D	A B C D
★	2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む）ができる。	A B C D	A B C D
★	3) 基本的な輸液ができる。	A B C D	A B C D
★	4) 輸血（成分輸血を含む）による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。	A B C D	A B C D
☆	5) 手術患者の術前術後の療養指導ができる。	A B C D	A B C D
☆	6) 周術期の補液管理・薬物投与の指示ができる。	A B C D	A B C D
☆	7) 周術期の患者の観察・検査の指示ができ結果の判断ができる。	A B C D	A B C D

II-A-(6) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 診療録（退院時サマリーを含む）をPOS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。	A B C D	A B C D
★	2) 処方箋・指示箋を作成し、管理できる。	A B C D	A B C D
★	3) 診断書、死亡診断書、死体検案書、その他の証明書を作成し、管理できる。	A B C D	A B C D
★	4) 紹介状と、紹介状の返信を作成でき、それを管理できる。	A B C D	A B C D

II-A-(7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を作成できる。	A B C D	A B C D
★	2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。	A B C D	A B C D
★	3) 入退院の適応を判断できる。（ディサージャリー症例を含む）	A B C D	A B C D
★	4) QOL(Quality of Life)を考慮にいたれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む）へ参画する。	A B C D	A B C D

※必須項目：

- 1) 診療録の作成
- 2) 処方箋・指示書の作成
- 3) 診断書の作成
- 4) 死亡診断書の作成
- 5) CPCレポートの作成、症例呈示
- 6) 紹介状、返信の作成

上記1)～6)を自ら行った経験があること（CPCレポートとは、剖検報告のこと）

B. 経験すべき症状・病態・疾患

II-B-1. 経験すべき症候

※必修項目：下線の症状を必ず経験し、サマリーレポートを提出する

*「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと

		研修医評価	指導医評価
★	1) 黄疸	A B C D	A B C D
★	2) 体重減少	A B C D	A B C D
	3) 熱傷・外傷	A B C D	A B C D
★	4) 嘔気・嘔吐	A B C D	A B C D
	5) 胸やけ	A B C D	A B C D
★	6) 腹痛	A B C D	A B C D
★	7) 便通異常（下痢、便秘）	A B C D	A B C D
	8) 下血・血便	A B C D	A B C D
★	9) 意識障害	A B C D	A B C D
★	10) 心停止	A B C D	A B C D
★	11) 排尿障害	A B C D	A B C D

II-B-2. 緊急を要する症状・病態

※必修項目：下線の病態を必ず経験し、サマリーレポートを提出すること

*「経験」とは、初期治療に参加すること

		研修医評価	指導医評価
★	1) 肺癌	A B C D	A B C D
★	2) 急性腹症	A B C D	A B C D
★	3) 急性消化管出血	A B C D	A B C D
★	4) 胃瘍	A B C D	A B C D
★	5) 胆石症	A B C D	A B C D
★	6) 大腸瘍	A B C D	A B C D
★	7) 外傷	A B C D	A B C D
★	8) 消化性潰瘍	A B C D	A B C D

II-B-3. 経験が求められる疾患・病態

(1) 呼吸器系疾患

		研修医評価	指導医評価
★	1) 呼吸不全	A B C D	A B C D
★	2) 胸膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）	A B C D	A B C D
★	3) 肺癌	A B C D	A B C D

(2) 消化器系疾患

		研修医評価	指導医評価
★	1) 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎）	A B C D	A B C D
★	2) 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）	A B C D	A B C D
★	3) 胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）	A B C D	A B C D
★	4) 横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）	A B C D	A B C D
☆	5) 内分泌疾患（甲状腺癌、乳癌など）	A B C D	A B C D
☆	6) 小児の鼠径ヘルニア	A B C D	A B C D

☆ゴシック体：当該科で経験が必要とされる項目

C. 特定の医療現場の経験

II-C- (1) 救急医療

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をするために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) バイタルサインの把握ができる。	A B C D	A B C D
★	2) 重症度及び緊急度の把握ができる。	A B C D	A B C D
★	3) ショックの診断と治療ができる。	A B C D	A B C D
★	4) 専門医への適切なコンサルテーションができる。	A B C D	A B C D

II-C- (2) 緩和・終末期医療

緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

		研修医評価	指導医評価
★	1) 心理社会的側面への配慮ができる。	A B C D	A B C D
★	2) 基本的な緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む）ができる。	A B C D	A B C D
★	3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。	A B C D	A B C D
★	4) 死生観・宗教観などへの配慮ができる。	A B C D	A B C D
★	5) 臨終に立ちあい、適切に対応できる。	A B C D	A B C D

☆ 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来

		研修医評価	指導医評価
頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。	A B C D	A B C D	

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。	A B C D	A B C D
---	---------	---------

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。	A B C D	A B C D
---	---------	---------

1). 研修指導体制

1. 責任指導医

- a. 外科研修中の指導の責任を負う。

2. 担当指導医

- a. 責任指導医の指示の下体制の構築、指導方略の決定、評価を行う。

3. 上級医

- a. 実地臨床において、診療や手技の指導を行う。

4. 医師以外の指導医

- a. 病棟・手術室看護師が指導にあたり、師長が評価する。また、病棟薬剤師、臨床検査技師、放射線技師なども当該関連部署において指導にあたる。

2) . 研修方略

1. オリエンテーション
 - a. 第1日に外科研修マニュアルに沿ってオリエンテーションを行い、研修内容・週間スケジュール・待機・事故や体調不良時の対応につき担当指導医より説明をする。
 - b. 病棟スタッフへの紹介・挨拶。
2. 病棟研修
 - a. 外科入院患者の血管確保や採血を行い、手技の向上に努める。
 - b. 受け持ち患者の周術期の観察・管理をその症例の主治医である上級医とともに行う。
3. 一般外来研修

週1回、一般外来を担当する。
4. 手術研修および標本病理研修
 - a. 外科手術の主に第2助手を務め、手術に参加するとともに切除標本の整理に関わり、肉眼所見の確認や所見の記載を研修する。
 - b. 症例によっては指導医の監督下に執刀を経験する。
5. CT読影研修
 - a. 外科外来診察室で指導医とCTの読影を行う。
6. 医局業務への参加
 - a. 外科検討会に参加、画像診断の読影・受け持ち症例の呈示を行う。
7. 症例レポート
 - a. 担当患者1名に外科周術期管理シートを完成させ、症例レポートとする。
 - b. 必須の症候・疾病・病態に関する診療概要をレポートとして、指導医に提出して指導を受ける。
指導医は、評価を行い、コメントを追加して研修センターに提出する。
 - c. 担当中に退院した場合は、入院診療概要（入院サマリー）として電子カルテに記載し、指導医の指導を受けるようにする。

3) . 週間スケジュール (火曜日が外来日の場合)

午前	手術の助手または病棟回診	外来	手術の助手または病棟回診	手術の助手または病棟回診	手術の助手または病棟回診
午後	手術または病棟業務、検査 16:30～ 消化器疾患検討会	手術または病棟業務、検査	手術または病棟業務、検査 夕方～ CT読影会	手術または病棟業務、検査 15:30～ 外科症例検討会	手術または病棟業務、検査

4) . 研修評価項目

1. 自己評価と指導医評価を規定に従い、研修終了後に入力する。
2. 一般外来研修の患者リストを作成し、指導医の捺印を得て、研修センターに提出する。
一般外来研修で診察を行った1症例を規定に沿ってレポートを作成し、指導医に提出する。
指導医は、評価を行い、研修センターに提出する。
3. 共通Aの評価表を規定に従い入力する。

研修全般に対する総合評価		研修医評価				指導医評価			
1)	仕事の処理	A	B	C	D	A	B	C	D
2)	報告・連絡	A	B	C	D	A	B	C	D
3)	患者への接し方	A	B	C	D	A	B	C	D
4)	規律	A	B	C	D	A	B	C	D
5)	協調性	A	B	C	D	A	B	C	D
6)	責任感	A	B	C	D	A	B	C	D
7)	誠実性	A	B	C	D	A	B	C	D
8)	明朗性	A	B	C	D	A	B	C	D
9)	積極性	A	B	C	D	A	B	C	D
10)	理解・判断	A	B	C	D	A	B	C	D
11)	知識・技能	A	B	C	D	A	B	C	D